

はじめに

丸山豊記念現代詩賞を終えるにあたって

平成三年に丸山豊記念現代詩賞を創設して以来、二十五回にわたって、現代詩賞を授与してきた。各受賞者はその時代の先端をいく詩人たちであり、その後、日本の現代詩の発展に大きく貢献をされていることは周知のことである。また、全国の詩人たちにとって丸山賞を受賞することは大きな目標であった。受賞者の活躍は目を見張るものがあり、現代詩賞の発展に大きく寄与したと自負する所である。

この二十五年の事業によつて、この久留米が生んだ詩人丸山豊の業績が大きく取り上げられた。丸山豊の評価が深められており、久留米にとって大きな財産となっている。

この賞を閉じるに当たり、久留米市をはじめ久留米市教育委員会、西日本新聞社、久留米大学、詩人、研究者などによつて実行委員会を作り運営してきたが、日本の現代詩の成長に大きな影響を与えた。この成果は実行委員会のものではなく、絶えず、真摯に選考を行っていたいただいた選考委員の先生たち及び丸山豊氏の遺族の方々からの、多大な協力を支えられて、獲得できたものである。多くの関係者の尽力に対して深くお礼を申しあげる。

最後になりますが、四半世紀の丸山豊記念現代詩賞の業績が長く伝えられることを祈念し挨拶いたします。

平成二十八年 七月一日

丸山豊記念現代詩賞実行委員会 会長 濱崎 裕子